

田ノ浦の現況

原電計画地点を写真でレポート

町外者の干渉はいらない!!



柵には反対派のメッセージ布が下げられている

この辺りの浜にテントやシーカヤックがたくさん置いてある(右下写真)

(10月18日)



作業台船と自船をロープでつなぎ、航行を妨害する反対派の船

(10月19日)

① 工事区域内に入った運搬台船



(10月15日)



(10月18日)

② 田ノ浦の工事区域内の海岸には、反対派のテントやシーカヤックが所狭しと並んでいる



(10月17日)

③ 柳井市相ノ浦沖に足止めされていた地盤改良船



(10月17日)

④ 四代沖に足止めされていたクレーン台船

「原子力の日」にチラシ配布や街宣

町民にまちづくりをアピール

10月26日は『原子力の日』。昭和38年のこの日、茨城県東海村の原子炉が日本で初めて発電に成功したことを記念して、翌年に制定されました。

町連協ではこの日に合わせて町内各所に60本ののぼりを設置。

また、当日は「上関の将来を私たちの手に取り戻そう」という内容のチラシを町内各戸に配布するとともに、街宣車で各地区を回り、1日も早い原電立地による町づくりの実現を訴えました。



TOPIC

推進派の代表者ら 社民党党首に要望

9月27日、社民党の福島党首が上関町を訪れました。田ノ浦視察と祝島で行われる集会への参加が目的だったようですが、渡島前、室津の埋立地で推進団体の代表者らが町内の実情を記したチラシなどを手渡し、町民の思いを伝えました。

同氏からは「読ませていただきます」との返事。しかし、1カ月経過した現在まで、何の反応もコメントもないのが残念です。

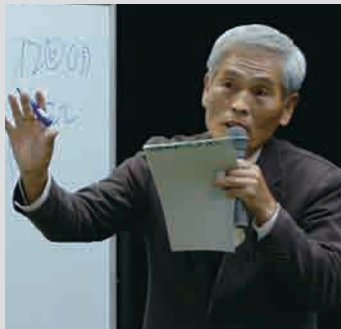


① 福島党首に現状を訴える古泉事務局担当 ② チラシなどが入った封筒を手渡す浅海秀氏



おくやみ

8月7日、上関町で郷土史家として活躍されていた西山弘志さんがご逝去されました。(享年68歳) 同氏は会報の歴史コーナーに情報を提供していただき、永きにわたってお世話になりました。心よりご冥福をお祈りいたします。



歴史講演会での西山氏 (2007年11月22日)

●田ノ浦の工事現場を訪れた。町外の反対派も多いようで、砂浜に我が物顔でテントを張り、カヤックを並べている。驚いたのは、見に行っただけの我々に対しても罵声を浴びせてくること。原電の推進はさておき、人として最低限のマナーくらい守ってほしい。(K)

●ここ数年体調を崩し、多くの皆さまにご心配やご迷惑をおかけしております。現在、治療・リハビリを続けており、一日も早く復帰して、まちづくりへの取り組みを再開したいと思います。(I)

後記